

キャンパスマップ



Graduate School of Sports and Health Science Master's Program in Sports and Health Science

2024年度
名桜大学 大学院
スポーツ健康科学研究科
(修士課程)





スポーツ・健康分野に関する高度な専門的知識と研究力を身につけ、理論と実践を往還できる高度専門職業人を養成する

高度専門職業人として、最新の知識を学び続け、時代や対象に応じ地域や教育の現場で健康支援ができるだけでなく、高度な専門的知識と研究力を身につけ、理論と実践を往還できる高度専門職業人としての健康支援人材の養成をめざします。

Message



大学院スポーツ健康科学研究科長
奥本 正

profile
学位：博士(体育科学)(筑波大学)
専門：運動生理学、スポーツ栄養学
(主な研究テーマ)
「暑熱環境下の運動における体温調節・水分調節に関する研究」
「競技パフォーマンス向上における栄養摂取に関する研究」

本研究科では、スポーツ・健康分野に関する学修を通して、高度な専門的知識と研究力を身につけ、理論と実践を往還できる高度専門職業人(保健体育教員、地域のスポーツ指導者、さらに健康運動指導士をはじめとする住民の健康増進を支援する者等)を養成することを目的としています。授業は講義形式だけでなく、演習・実習系の授業を通して、理論の実践への応用、あるいは実践の課題から理論への還元を繰り返し、課題に取り組んでいきます。また様々な分野のスポーツや身体活動・運動を指導する教員・指導者に対応できるように、3つの履修モデル(スポーツ教育、地域のスポーツ指導者、地域の健康支援)を提供しています。

現代は学び続ける時代であります。これまでの人生は教育→仕事→引退という3つのステージで構成されていると言われています。しかし、今後の日本社会で活躍していくには、時代の変化に応じて適応して行く必要があり、仕事を中断し、学び

直す。または、仕事をしながら学び続ける必要があります。そのために、現職の保健体育教員、地域のスポーツ指導者、健康運動指導士や健康運動実践指導者の資格をもったスポーツインストラクターなど、スポーツや運動を指導している社会人のリカレント教育の場を提供しています。このように、本研究科では、学部卒業生だけでなく、社会人経験者の方々も入学し、確実に学位取得が可能となるよう、きめ細かなカリキュラム・履修方法を取り入れております。

誰もが様々な形でスポーツを楽しみ、健康で生きる社会を実現するために、スポーツの意義と価値、身体活動・運動の重要性を伝えられるスポーツ指導者、保健体育教員をめざし、また地域だけでなく、日本・世界でも活躍できる人材となるために本研究科で学んでみませんか。

3つのポリシー

▶ 学位授与方針(DP)

- ① 自己の専門分野における高度な知識と、スポーツ・健康分野の広範な領域を横断する知識を有している。
- ② 専門分野の知識や自らの経験から見出した課題を適切な研究方法を用いて分析し、新たな知見を得ることができる。
- ③ 高い倫理観を持ち、専門性の高い知識・技能を基盤にして指導できる。

▶ 入学者受入方針(AP)

スポーツ健康科学研究科修士課程の教育研究目的を理解して、本研究科修士課程への入学を希望する次のような学生に対して多様な入学者選抜方法を用いて受け入れる。

- ① スポーツ・健康分野の基礎的な知識と論理的思考力、文献読解力を有している。
- ② 地域社会に広く還元する意欲とコミュニケーション能力を有している。

▶ 教育課程編成・実施方針(CP)

教育内容

- ① 広範なスポーツ・健康分野を横断した知識と、自らの専門分野における知識を深化させるために、「基礎科目」「共通科目」「専門科目」を配置する。
- ② 高い倫理観を養成するとともに、スポーツ・健康分野における種々の課題を適切な手法を用いて分析するために、「基礎科目」「研究科目」を配置する。
- ③ 専門性の高い知識・技能を基盤にした指導力を養成するための科目として、「専門科目」に「コーチング特論」「地域ヘルスプロモーション特論Ⅰ」「地域ヘルスプロモーション特論Ⅱ」「保健体育科教育特論Ⅰ」「保健体育科教育特論Ⅱ」を配置する。

教育方法

- ① 「基礎科目」「共通科目」「専門科目」は講義、演習いずれかで行うとともに、発表や議論を用い、学生が主体的・能動的に学修する。

教育評価

- ① 各授業は、シラバスに示した到達目標の達成度に応じた評価方法を導入し、適正な成績評価によって単位を付与する。
- ② 修士論文は、口述試験と評価ルーブリックにより審査・評価する。
- ③ 2年間の学修成果は、基礎科目(必修)、共通科目、専門科目、特別研究(必修)によって行い、総合的に評価する。

「スポーツ領域」と「健康領域」の2つの領域を追究し、幅広い知識と実践力を深化させる

学位名称 修士(スポーツ健康科学)
Master of Science in Sports and Health Science

取得資格 中学校保健体育教諭専修免許
高等学校保健体育教諭専修免許

教育研究を総合的に深化させるため、「基礎科目」、「共通科目」をはじめとし、自らの専門を選択・深化させる「専門科目」を設定。さらに「研究科目」において自らの研究分野を深化できるようにします。カリキュラムは自らの中心となる専門知識と方法論の基礎を固めることを中核におき、理論の修得と実践する科目で構成されています。

カリキュラム (修了要件:合計30単位以上)

1年次	2年次
基礎科目 (4単位) ●スポーツ健康科学特論 ●スポーツ健康科学研究方法論	
共通科目 (6単位以上) ●生涯スポーツ特論 ●健康科学特論	●体力科学特論 ●疫学特論 ●英語購読
専門科目 (12単位以上) ●運動生理学特論 ●バイオメカニクス特論 ●スポーツ心理学特論 ●健康教育特論 ●公衆衛生学特論 ●地域ヘルスプロモーション特論Ⅰ	●スポーツ健康栄養学特論 ●コーチング特論 ●スポーツマネジメント特論 ●スポーツ医学特論 ●スポーツ文化特論 ●保健体育科教育特論Ⅰ ●健康心理学特論 ●体力測定評価学特論 ●老年学特論 ●学校保健特論
研究科目 (8単位) ●特別研究Ⅰ	●伝統武道特論 ●スポーツ倫理特論 ●運動処方特論 ●地域ヘルスプロモーション特論Ⅱ ●保健体育科教育特論Ⅱ ●特別研究Ⅱ

時間割 前期

	月	火	水	木	金	土
1						
2	●スポーツ健康科学特論	●スポーツ健康科学研究方法論	●生涯スポーツ特論 ●健康教育特論 ●スポーツ心理学特論 ●公衆衛生学特論	●健康科学特論 ●スポーツ倫理特論 ●地域ヘルスプロモーション特論Ⅱ	●運動生理学特論 ●地域ヘルスプロモーション特論Ⅰ ●運動処方特論 ●バイオメカニクス特論 ●保健体育科教育特論Ⅱ	●特別研究Ⅰ
3			●伝統武道特論			●特別研究Ⅱ
4						
5				●健康科学特論 ●スポーツ倫理特論 ●地域ヘルスプロモーション特論Ⅱ		
6	●スポーツ健康科学特論	●スポーツ健康科学研究方法論	●生涯スポーツ特論 ●健康教育特論 ●スポーツ心理学特論 ●公衆衛生学特論 ●伝統武道特論			
7				●運動生理学特論 ●地域ヘルスプロモーション特論Ⅰ ●運動処方特論 ●バイオメカニクス特論 ●保健体育科教育特論Ⅱ		

時間割 後期

	月	火	水	木	金	土
1						
2	●体力科学特論 ●スポーツ健康栄養学特論 ●保健体育科教育特論Ⅰ	●疫学特論 ●スポーツ医学特論	●英語購読 ●健康心理学特論 ●コーチング特論	●老年学特論 ●体力測定評価学特論	●スポーツ文化特論 ●学校保健特論	●特別研究Ⅰ
3						●特別研究Ⅱ
4						
5						
6	●体力科学特論 ●スポーツ健康栄養学特論 ●保健体育科教育特論Ⅰ	●疫学特論 ●スポーツ医学特論 ●スポーツマネジメント特論	●健康心理学特論 ●英語購読 ●コーチング特論	●体力測定評価学特論	●学校保健特論 ●スポーツ文化特論	
7				●老年学特論		

将来の目標に応じた
3つの履修モデル

本研究科では、高度専門職業人としての健康支援人材を養成します。そのため、3つの履修モデルを設置しています。この履修モデルを参考に履修科目を選択することで、自身の将来の目標に合わせて、効果的に学修することができます。

これはあくまで履修モデルですので、モデルによって卒業要件が分かれていたり、履修科目が制限されたりすることはありません。自身の希望に合わせて自由にカスタマイズすることができます。

スポーツ教育モデル	先進的な教育カリキュラムおよび授業の開発・実践・評価ができる、高度な専門性を有する保健体育の教員の養成
地域のスポーツ指導モデル	子どもから高齢者まで幅広い年齢層の参加者に対して、データを活用したプレイヤー主体の指導を実践し、スポーツを通じた地域振興に貢献できる人材の養成
地域の健康支援モデル	子どもから高齢者までの健康課題に対応した健康プログラムの指導・開発ができる、地域社会に貢献できる人材の養成

履修推奨科目	1年次	2年次
履修推奨科目Ⅰ	研究 ●特別研究Ⅰ 専門 ●保健体育科教育特論Ⅰ ●学校保健特論 ●コーチング特論 ●スポーツ文化特論 ●公衆衛生学特論 ●健康教育特論 ●運動生理学特論 ●スポーツ心理学特論 共通 ●体力科学特論 ●生涯スポーツ特論 ●健康科学特論 基礎 ●スポーツ健康科学特論 ●スポーツ健康科学研究方法論	研究 ●特別研究Ⅱ 専門 ●保健体育科教育特論Ⅱ ※ 網掛 必修 ※ 下線 専修免許指定科目
履修推奨科目Ⅱ	研究 ●特別研究Ⅰ 専門 ●スポーツ文化特論 ●コーチング特論 ●スポーツ医学特論 ●バイオメカニクス特論 ●スポーツ健康栄養学特論 ●運動生理学特論 ●スポーツ心理学特論 共通 ●体力科学特論 ●疫学特論 ●生涯スポーツ特論 ●健康科学特論 基礎 ●スポーツ健康科学特論 ●スポーツ健康科学研究方法論	研究 ●特別研究Ⅱ 専門 ●スポーツ倫理特論 ※ 網掛 必修 ※ 下線 専修免許指定科目
履修推奨科目Ⅲ	研究 ●特別研究Ⅰ 専門 ●スポーツマネジメント特論 ●スポーツ医学特論 ●老年学特論 ●健康心理学特論 ●コーチング特論 ●健康教育特論 ●地域ヘルスプロモーション特論Ⅰ 共通 ●疫学特論 ●健康科学特論 ●体力科学特論 基礎 ●スポーツ健康科学特論 ●スポーツ健康科学研究方法論	研究 ●特別研究Ⅱ 専門 ●運動処方特論 ●地域ヘルスプロモーション特論Ⅱ ※ 網掛 必修 ※ 下線 専修免許指定科目

修了後に予想される進路・就職先
・専修免許状を有する中学校保健体育教諭 ・専修免許状を有する高等学校保健体育教諭 ・部活動指導員 等
・地域スポーツ指導者 ・スポーツ政策に関わる行政職 ・競技スポーツチームのマネジメント業務 ・競技スポーツチームにおける指導者 ・総合型地域スポーツクラブにおける指導者、クラブマネージャー 等
・医療機関における健康指導者 ・健康政策に関わる行政職 ・健康増進センター等の指導者、マネジメント業務者 ・総合型地域スポーツクラブにおける指導者、クラブマネージャー ・福祉施設等の健康運動指導員 等

入学者選抜概要

🕒 入学定員 6名

🕒 入学者選抜方法

一般選抜

本学、他大学を問わず学部を卒業または卒業見込みの者、学部を卒業した者と同等以上の学力を有すると認められた者を対象に入学試験を行います。入学試験では、アドミッション・ポリシーに定める資質・能力を十分評価できるよう、筆記試験および面接試験を実施します。

筆記試験

スポーツ・健康分野における基礎問題(基礎的知識、論理的思考力、文献読解力を測る)を課すとともに、英文和訳問題を課し、修士論文に最低限必要な語学力の判断・評価をするための語学試験(英語)を実施します。

面接試験

将来についての構想、学習の意識・意欲、大学院在学中の生活設計などについて面接試験を実施します。

社会人選抜

本学、他学部卒業後2年以上の実務経験ないしは活動経験を有する者、または、高等学校卒業後4年以上の実務経験ないしは活動経験を有する者で大学を卒業した者と同等以上の学力および能力を有すると認められた者を対象に社会人選抜を行います。

社会人選抜では、アドミッション・ポリシーに定める資質・能力を十分に評価できるよう、筆記試験および面接試験を実施します。

本研究科は、社会人が就業を継続しながら大学院において学修するための教育的配慮を行います。

筆記試験

スポーツ・健康分野における基礎問題(基礎的知識、論理的思考力、文献読解力を測る)を課すとともに、これまでの職務経験に関する問題を課し、どのようにスポーツ・健康分野への関心や認識を醸成してきたかといったことを判断・評価するための試験を実施します。

面接試験

将来についての構想、学習の意識・意欲、大学院在学中の生活設計などについて面接試験を実施します。

🕒 入試日程

願書受付期間 令和6(2024)年1月15日(月)~1月19日(金)
(消印有効)

試験日 令和6(2024)年2月3日(土)

合格発表 令和6(2024)年2月28日(水) 15:00

入学手続期間 令和6(2024)年3月1日(金)~3月8日(金)

🕒 入学金・学費

学費等納入金

	研究科	スポーツ健康科学研究科(修士課程)		
		地域内	地域外	
学費	入学金	125,000円	250,000円	
	授業料	前学期	267,900円	267,900円
		後学期	267,900円	267,900円
諸経費	後援会費	入学手続時	20,000円	20,000円
	学生教育研究・災害傷害保険	入学手続時	1,750円	1,750円
		学研災付帯賠償責任保険	入学手続時	1,000円
合計	初年度納入総額	683,550円	808,550円	
初年度納入総額内訳	入学手続時納入金	415,650円	540,650円	
	後学期納入金	267,900円	267,900円	

※学研災付帯賠償責任保険については、希望者のみ必要に応じ随時加入できます。

※諸経費は、入学手続時に2年間分を納入します。

入学金に変更が生じた場合は、入学金の追加納入請求又は入学金の一部返還の措置を取ります。



研究指導教員 PROFILE

奥本 正 教授
OKUMOTO Tadashi

指導可能な研究分野

現在、暑熱環境下での沖縄県在住者の体温調節の研究、やんばる版プロジェクト健診のデータを用いて運動や身体活動量と生活習慣病や肥満の関連を明らかにする研究等を行っています。競技者のパフォーマンスを決定する要因やトレーニング効果、サプリメントや食事改善の効果などを生理学や生化学的手法を用いた実験的研究は幅広く指導可能です。

高瀬 幸一 教授
TAKASE Koichi

指導可能な研究分野

健康の維持増進・長寿に関わる地域介入研究(主にアニメーショングラフィックを用いた介入など)、高齢者の生理学的な機能に関わる実験研究を主として行います。また、地域住民を対象にした健康増進の取り組みなど、ウェルビーイングな"まち"づくりに関する研究も指導可能です。

平野 貴也 教授
HIRANO Takaya

指導可能な研究分野

スポーツ事象における大衆化と高度化に関する研究指導が可能です。例えばスポーツツーリズムやスポーツイベントによる地域活性化やまちづくりに関する社会的な研究、スポーツやレジャー・レクリエーション、野外教育や体験活動における指導方法に関する研究指導が可能です。

小川 寿美子 教授
OGAWA Sumiko

指導可能な研究分野

国境を越えて広がる保健医療に関わる健康格差問題について指導することが可能です。対象となる分野は、感染症、母子保健、難民・移民の保険問題から生活習慣病予防など幅広く、地球規模の保健医療問題に将来、貢献したい人材の育成と指導が可能です。

吉武 裕 教授
YOSHITAKE Yutaka

指導可能な研究分野

地域在住高齢者を対象とした長期縦断的研究(70歳から100歳)において、高齢者の体力(握力、開眼片脚立ち、膝伸展力、歩行速度など)の加齢変化についての研究を行います。また、健康指標(主に総死亡率)と歩数または体力の関連についての研究も指導可能です。

樋口 京一 教授
HIGUCHI Keiichi

指導可能な研究分野

サプリメント、食品や運動が、高齢者や若齢者の健康増進に及ぼす効果と、その効果のメカニズムについて、バイオマーカー、遺伝子多型、腸内フローラ、炎症などの観点からの解析を行います。また、個人の遺伝的な特性(運動に関係する遺伝子の多型等)と運動の効率との関連を解析する研究も指導可能です。

金城 昇 教授
KINJO Noboru

指導可能な研究分野

ライフスキル教育や行動科学等の考え方を活用した学校・地域・職域を対象とした健康教育のプログラム開発や介入研究が指導可能です。また、乳幼児から高齢者までの健康の維持増進や運動器疾患等を有する人々を対象とした臨床動作法を活用した健康教育の実践的研究も指導可能です。

高倉 実 教授
TAKAKURA Minoru

指導可能な研究分野

学校保健をフィールドとした健康の社会的決定要因に関する疫学研究が指導可能です。例えば青少年の健康指標にみられる社会経済格差や社会関係の影響、それらの時間的変化に関する観察研究等です。人々の身体活動や座位行動と健康・発育発達指標との関連やその決定要因に関する疫学研究、学校や地域におけるヘルスプロモーションや健康教育等の介入研究も指導可能です。

大峰 光博 教授
OMINE Mitsuharu

指導可能な研究分野

スポーツ倫理やスポーツ教育に関する研究が指導可能です。例えば、試合におけるルール違反やスポーツパーソンシップ、運動部活動における体罰や連帯責任、ドーピング、スポーツによる人格形成や差別が対象になってきます。現在進行形で生じているスポーツにおける倫理・教育問題に対して、倫理学や歴史学の観点からアプローチする研究が指導可能です。